



本年2月末現在、作業部会は全員で3月末の報告会(「標準化経穴部位と今後の動きについて」)準備資料を作成中です。そこで、これまでの第一次、第二次日本経穴委員会の歩みとWHOの経穴部位標準化の経緯を一度整理しておくといいかもしれません。編集部との質疑応答の形式で整理しました。

— 経穴委員会のはじまりはいつですか。

第一次日本経穴委員会は、1965年4月に発足しました。今から42年前のことです。

— 目的は何だったのですか。

「経絡経穴の世界的統一」を目的に、日本鍼灸治療学会を母体に鍼灸界の学識経験者を網羅した団体でした。1965年の第1回国際鍼灸学会が東京で開催され、その時に「経絡経穴名の表記の統一」ということで日本が提案・検討したのがきっかけで委員会が発足しました。

しかしその後あまり活動がなくなり自然消滅し、新たに1973年に、経絡経穴の名前だけでなく、部位の統一をも目標に鍼灸医学に関連する11団体が結集し再結成いたしました。34年前のことです。

— 国際的な経穴部位標準化のはじまりはいつですか。

今から26年前の1981年5月20日、WHO西太平洋地域事務局長・中嶋宏氏の要請により、呉

竹学園にて第1回日中の会議が開かれました。日中間の経絡経穴に関する相違点並びに共通点を調査し、経絡経穴の国際統一をしようという気運が高まった時期でした。当時の日本経穴委員会は木下晴都委員長以下8名、中国側はWHO派遣の王徳深氏以下数名が参加し、3日間会議が行われました。

— その時はどこまで決まったのですか。

- ・ 経穴の総穴は361。
 - ・ 経穴部位の表示として、基準的な経穴および体表解剖学的に表示可能な経穴部位は、解剖学的な表示を採用する。
- 以上の2点でした。検討事項としては、
- ・ 経穴の配列順位(『十四経發揮』順)
 - ・ 骨度(前腕12寸、両乳間8寸、下腹部の縦の長さ5寸など)
 - ・ 背部、胸腹部の基本線などがありました。

ちなみに、このときに飛陽を飛揚、人中を水溝、或中を或中、客主人を上関に変更する提案が出ました。

— この決定事項は、今回のつくば国際会議に引き継がれているわけですね。その後の経過はいかがですか。

経穴総数361は決まっていますが、経絡と経穴を記号でどう表現するかまだ決まっています。

でした。現在使われている肺経の経絡名〔手太陰肺経・Lung Meridian〕、肺経のツボを〔LU 1、2、3……11〕と決める前の話です。当時、中国国内でも統一がされなかったので、中国でも委員会を設け専門家たちが相当、議論を重ねていました。

日本国内でも日本経穴専門委員会（藤田六朗委員長）を設け議論が始まりました。いわゆる基本線の名称および位置、解剖学的に表示できない経穴についてなどです。

1981年5月の第1回日中会議から1982年8月までの計4回、日中間で会議を行いました。

その後、西太平洋地域鍼用語標準化の会議が1982年から1987年にかけてマニラ、東京、香港、韓国と4回会議が催されました。

そして最終的に1989年、ジュネーブにおいて「鍼用語標準化のための国際会議」として結実されたわけです。

— 韓国の参加はいつですか。

1982年のマニラからです。つくばの会議でも元気に参加された姜教授はこの時からのメンバーの一人です。24年、約四半世紀かかった計算になります。

— ソウル合意という言葉が会議で耳にするのですが。

これは1987年、韓国・ソウルで行われた「鍼用語標準化に関する第3回WHO地域ワーキンググループ会議」の決定事項のことです。

骨度で言えば、以下のようなものです。

1. 胸骨柄上縁より胸骨下端 9寸
2. 胸骨下端より臍まで 8寸
3. 臍より恥骨上縁まで 5寸
4. 内果より地表まで 3寸
5. 大転子から膝関節まで 19寸
6. 膝関節から外果尖まで 16寸

— ジュネーブの国際会議で決定されたのはど

こまでですか。

決定事項は、経絡経穴名、奇経八脈のコード名、奇穴48穴、頭鍼に関して決まりました。

— 最終決定の刊行物は何という本ですか。

「STANDARD ACUPUNCTURE NOMENCLATURE second edition」という本です。

経穴委員会のホームページ (<http://point.umin.jp/>) で見るすることができます。

— その後、会はどうなったのですか。

1973年の発足から17年活動し、当初の任務を終了すると、1989年に全日本鍼灸学会に移管し発展的解散をしました。

— 経穴部位標準化会議の再開の経緯を教えてください。

2002年、WFAS（世界鍼灸学会連合会）終身名誉会長の王雪苔氏からWFAS副会長の黒須幸男氏にWHOで経穴の標準化をしたいとの打診があり、それが再スタートのはじまりです。

2003年11月、WHO西太平洋事務局の要請で、マニラにて日中韓の3カ国で「第1回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議」が再開されました。そして翌年の2004年、北京にて361穴の具体的討論に入ったわけです。

— 第二次日本経穴委員会はどのように発足したのですか。

2004年4月に、北京会議の検討事項を早急に討議するため、全日本鍼灸学会、日本鍼灸師会、東洋療法学校協会、日本東洋医学会、日本理療科教員連盟の5つの関係団体が母体となって発足し現在に至っています。

以後、2004年に京都、2005年に大田（テジョン）、大阪、2006年に東京と会議が続けられ、昨年11月つくばで「経穴部位国際標準化公式会議」が催され、悲願であった361経穴部位の国際標準化がようやく実現したわけです。

(〒356-0031 埼玉県ふじみ野市福岡中央1-6-2)